

# 長野の林業

No.  
376

## 特集

信州林材見聞録

豊かな暮らしづくりを通して豊かな森づくり

### トピックス

- ・造林作業機械の実演会について
- ・林務部動画絶賛配信中！
- ・なっとく森林経営管理制度

### 県森連だより



延期されていた栄村でのふるさとの森づくり県民の集い第71回長野県植樹祭は、残念ながら実行委員会だけの植樹となりました。

多くの皆様のご参加は叶いませんでしたが、企業や団体から協賛という形でお力添えをいただきましたことに感謝申し上げます。

植樹の様子はYouTubeにアップされていますので、“第71回長野県植樹祭”でご覧ください。

木を育て、山間の暮らしを育む



林材ライター 赤堀 楠雄



林材業の取材に従事

私は昭和63年に老舗業界新聞社（大正10年創刊）の林材新聞社に入社して以来、30年余にわたり林業・木材産業の取材に従事しています。林材新聞では東京下町の深川にあった本社に11年間勤務しました。その間、林野庁の林政記者クラブに所属し、主に林野行政の取材を担当していました。平成11年に同社を退社し、以後はフリー記者として活動しています。

残念ながら、林材新聞は平成26年3月に廃刊となり、その長い歴史に幕を閉じました。ご存じの通り「林材」とは、川上の「林業」と川中・川下の「木材」を包含した業界用語です。私が「林材ライター」と名乗っているのは、この世界に関わるきつかけをつくつ

てくれた古業にちなむとともに、「木」に関わることなら川上から川下までのすべてを取材対象とするスタンスを明らかにする意味を込めています。

上田市の山間集落に移住

プライベートのことに若干触れると、東京で生まれ、中学から30代半ばまでは神奈川県で過ごし、その後また東京暮らしに戻りました。住んでいた場所はいずれも郊外でしたが、出自は都市住民だと言えます。

その立場を捨てて、現在住んでいる上田市の山間集落に移住してきたのは、平成22年のことでした。ここには地縁も血縁もまったくない、集落の側からしても移住者を受け入れた経験がほとんどない土地柄で、振り返ると我ながらよく飛び込んだものだと思います。私の場合、いわゆるイターンの林業従事者を何人も取材したことがあったので、山間地への移住がどういうものか、何となく想像で

きた部分もあったのですが、実際に暮らしてみると、初めて経験することが連続して降りかかってくるような日々を過ごすことになりました。驚いたり戸惑ったり、あるいは、地域コミュニティとはこういうものかと腑に落ちたり、それぞれが個別に体験した出来事を家人と持ち寄り、その意味や背景を理解するために話し合ったりと、そんなふうにながら10年少しが経ちました。

今はかなり慣れて、いくつかの役にも任じられるようになり、互いの顔がよく見える小さなコミュニティに居場所のあるありがたさを実感しながら暮らしています。

山間の暮らしそのものが林業

林業とはどんな営みか。この問いに対する現時点での私の答えは「森の恵みを生かして山間の暮らしを成り立たせること」と「木を大切に育て続けること」です。

このうち前者は、取材で出会った2人の人から示唆を得ています。そのひとりとは長野県に移住して林業に携わるようになった人です（現在は主に農業に従事されています）、もう10年以上も前のことです。イターン林業者ばかりが集まった催しの席上で、その人は

次のように発言したのです。「山間地の集落で地域の役を務めたり、消防団で活動したり、PTAの役員をやったり、姿が見えなくなった年寄りを山に探しに行ったりという日々の暮らしそのものが自分にとっての『林業』だ」と思っている」

この言葉を聞いた時、私は探し続けていたものに行き当たったような感覚を覚えました。その頃は、林業に携わる立場の中でも、森林組合の作業班員や林業事業体の従業員など、現場で働く人たちへの取材に力を入れていて、その言葉は、裏返せば、そういう人たちの暮らしが成り立つような林業でなければいけないのだという気づきももたらしてくれました。

もうひとは、東北のある森林組合の組合長で、取材に訪れたのは10年ほど前のことです。その組合では山菜やキノコの加工販売に力を入れているほか、組合員が採ってくる大量のササの葉を取りまとめ、ササ寿司やササ団子用に出荷していました。私は何かのきっかけでこの組合がササの葉を扱っていると聞いて興味を覚え、取材に足を運んだのです。

そこはブナをはじめとする広葉樹林が多くを占めている地域で、



組合員が採取したササの葉を取りまとめ、出荷販売している森林組合がある

その組合長は「昔からこの地域では、猟で獣を獲ってきたり、漆を採ったり、ワラビがよく出るように伐開して日当たりを良くしたり、マムシを捕まえて売ったりと、とにかく山の恵みをすべて生かして何とか暮らしを成り立たせてきた。これがこの地域の林業なんです」と話してくれました。

この言葉に私はうなずくほかはなく、先のＩターン林業者の言葉も重ねて「森の恵みを生かして山間の暮らしを成り立たせる。その暮らしそのものが林業」なのだと思ふのでした。

### 林業は常に「育てる時代」

もうひとつの「木を大切に育て続けること」が林業なのだと思ふに思ったのは、20年近く前に静岡の天竜に行った時のことでした。

そこで出会った林家から「自分が今、林業で食べていけるのは、過去に木を植えて育ててくれた人がいたからだ。山には無数の足跡があり、たくさん汗が染み込んでいる。それを思うと、いくら厳しくても林業をやめるなど思いもよらない」と聞かされたのです。その言葉を聞きながら、周囲に立ち並ぶスギやヒノキを見上げ、「そうか、人が育て続けてきたから、この山があるんだな」と気持ちが高ぶらせたのを覚えています。

「木を育て続けること」の大切さをさらに強く思ったのは、5、6年前に愛媛県の林家から「今の林業は生産一辺倒になっている」と指摘された時のことです。「稲作で言えば、たわわに実った稲を刈り取って、その儲けがいくらになるのかばかりを考えている。しかし、コメが収穫できるようにするまでには、荒起こし、代掻き、田植え、畦草刈等々と、育てるための作業がたくさんある。林業も同じで、生産だけで成り立つはずがない」と、その林家は言い、「植えて育てた世代に対する感謝の気持ちがないなら、それは林業ではない」と断じてみせました。ちょうどその頃、林業政策のキャッチフレーズとして「育てる

時代から、利用する時代になった」ということが強調されるようになっていて、私はそれに何か釈然としない気持ちを抱いていたので、この林家の言葉は強く胸に響きました。生産一辺倒、利用一辺倒でいいわけではない。林業は常に「育てる時代」であり、そうやって木を育て続けなければ継続できないのです。



そ、こから人がくれたて育て植、今この山があることを忘れてはならない

実は昨年あたりから広葉樹林業の取材に力を入れていて、針葉樹とは異なる広葉樹の仕立てについて、あれこれと考えています。広葉樹林の多くは天然林であり、これまででは特段の手入れはせず、ある程度の大きさになったら皆伐し、天然更新を期待するというやり方が一般的だったと思います。その広葉樹林業において「育てる

続ける」というのがどういうことか、まだきちんと整理できていないのですが、「育てる」を「育む」と読み替えれば通じるところはあるはずですし、最近では人為を積極的に施して優良な広葉樹を育てることにチャレンジしている地域も出てきているので、「木を大切に育て続けること」が林業なのだと思ふという考えは広葉樹林業にも適用できると思っています。

これからの林業や山間の暮らしはどうなっていくのでしょうか。折しもウッドショックと呼ばれる混乱のさなかにあつて、国産材を見直す動きはおそらく加速すると思われ、木材生産という側面で見れば、林業には間違いなく追い風が吹くだろうと予測しています。

一方、山間の暮らしについては、加速する高齢化と人口減、山への関心の低下等々の課題が大きく立ちまはだかっていることを当事者の一人として痛感しています。

この連載では、全国各地の動向も意識しながら、長野県の林業業界の動きや山間地域で展開されている取り組みを取り上げ、木を育て続ける、山での暮らしを成り立たせるための道筋を探っていきたいと思ひます。

# 豊かな暮らしづくりを通して豊かな森づくり

## 株式会社 やまとわ36office

### そのひら

株式会社やまとわ36office（以下、「やまとわ」）は、伊那市西箕輪にある、森の資源を使った楽しい暮らしの提案を通して豊かな森をつくることを目指す会社です。

やまとわは、2016年10月に（株）KOAの子会社として誕生した若い会社です。その名前は「山（やま）・杜（と）・環（わ）」の三つの漢字から取られ、「森をつくる暮らしをつくる」を企業理念としています。

現在18名の社員が農と森事業部・木工事業部・暮らし事業部・森事業部の4つの部門に分かれ、農林業・家具などの木工品づくり・住宅とエネルギー・森のプランニングなどの事業を展開しています。これらの事業活動は常に人々の暮らしに結びつくことを前提としていて、特に木工事業部では地域で育つ木々を使う「ものづくり」を進めています。

やまとわが展開する木工は、次の3つが主力です。

- ・オーダーメイド  
個別の注文調度品



調度品は職人の手で一つづつ製作します

- ・パイオニアプランツ  
伊那谷のアカマツで作った軽くて折りたためる無垢の家具
- ・信州経木 shiki  
アカマツの経木



片手で持ち運べるほど軽い折り畳みイス

前に地域に根ざした技術は既に途絶えていたため、職員は長野市信州新町にいる職人に教えを請いました。また、50年以上も前に製造された経木機（木材を薄くスライスする機械）を探し出し、譲り受けることが出来たため、経木の製造がスタートしました。しかし、当初はなかなか思いどおりの製品を作ることが出来ず、試行錯誤の連続の末、2020年8月に製造が開始されました。

### 「経木の製作工程」

- ① 玉切り（節と節の間で玉切る）
- ② 木取り（きれいな木目が出るよう、かまぼこ板状の形に



木取りされたアカマツ材



完成した経木(左)と梱包した製品(右)



50年経っても現役の経木機

- ③ 切削(経木機で0・18ミリの厚さにスライスする)
- ④ 脱水(大型の脱水機で水分を抜く)
- ⑤ 乾燥(しっかりと乾かす)
- ⑥ 検品・梱包・出荷

製材)

この様にして製造される経木は販売店やオンラインショップで販売されています。また、伊那市ではこの経木を地域の飲食店で活用していただく取組をし、地域材の有効活用による地域循環型社会づくりを地域の方々に理解していただこうとしています。

これらの伊那谷のアカマツを使用したやまとわのプロダクトは、様々な場面で評価もされており、2020年ふるさと名品オブ・ザ・イヤーでは「地域創生賞(コト部門)」を受賞しました。

2021年度は木工作业所を拡大し、更に多くの森の恵みを届ける取組を進めようとしています。

## やまとわの暮らし

やまとわでは、人づくりも取り組んでいます。

1994年に元信州大学教授島崎洋路さん(2021年逝去)が塾長となり山仕事を学ぶKOA森林塾が始まりました。2016年

まで多くの方が学んだこの塾からは多くの地域リーダーや林業関係者、自伐林家などを輩出しました。そしてなによりも、多くの森林の理解者を生み出しました。2016年にやまとわが誕生し、この森林塾はやまとわ森事業部に引き継がれています。

森事業部では、森林の管理についての提案や施業を行いながら、人材育成を進め、また農と森事業部や暮らし事業部が地域づくりや森林の資源を活用した暮らしの提案を進めています。

## 森をつくる暮らしをつくる

やまとわ代表取締役の中村博さんは、「日本はもちろん、世界の森林環境が抱える課題にアプローチしていただける会社になりたい。また、そのためにも、地域の森林に合わせた森づくりの提案・地域の木材の活用・建築と暮らしへの提案をしていきたい」と言います。今後は、

- ・ 森林をトータルでプランニングする「森の企画室」の充実
  - ・ 様々な提案を通じた「森をつくる暮らしの具体化」
- に取り組んでいきたいとのことでした。



やまとわのスタッフのみなさん

【上伊那地域振興局林務課】

## 造林作業機械の実演会について

令和3年5月31日から4日間に渡り、佐久地域のカラマツの主伐現場において、(株)筑水キャニコムの開発した、「山もつとジョージ」による造林作業の実演会が行われました。見学を目的とせず、実証試験として行われ、佐久森林林業振興会に後援依頼があったことから、実演会について報告いたします。

本機械は、平成30年度の林野庁補助事業の支援を受け開発されたもので、翌年度から販売を開始し、10台以上の販売実績があります。昨年度からは(株)レンタルのニッケンにも導入されています。

堤防用の草刈機を林業の下刈り用に開発するコンセプトで始まりましたが、実際の植栽地では、ただ傾斜地であるばかりではなく、枝条や切株が作業を妨げるため、これらを下草と併せて粉碎するアタッチメントの開発、安定した操縦を可能とする搭乗台座、片手で操作できる操縦桿など、多くの課題をクリアする必要があったようです。そのため、下刈り以外にも地拵え、除伐、苗木運搬等の機能を持った造林機械として製品化されました。

複数のアタッチメントがありますが、基本的に伐根粉碎／下刈りが可能なものを標準とすると、全幅1,605ミリ、軽トラック並のサイズで、重量は約2・5トン、ミニバックホウの



カラマツの枝条を粉碎する「山もつとジョージ」

約半分と軽量です。

現地は、佐久市内の南佐久北部森林組合が受託したカラマツの主伐後の地拵え現場で、(株)アクロスが請け負っています。実証試験の内容は、①枝条及び伐根の粉碎。②棚に見立てた枝条の粉碎。③カラマツ林内の林床整理(樹高5、6mの広葉樹の伐倒粉碎・除伐)を行いました。

①については、人力による枝条の集積、棚整理作業より労働負荷の軽減が期待されます。但し、切株が多いと時間を要し、短コロは別処理する必要があります。②については、棚がなくなることで植栽管理、下刈り作業の効率化が図られ、労働負荷は下がる一方、チップパーを使用するより時間を要すると思われました。③については、立木をよけながらの作業となり、機械の取廻しに難があったことと、比較的樹高のある伐倒木が機械のオペレータ側に倒れた場合のガードの強度に若干不安を感じましたが、①同様に、灌木類が粉碎されることで、その後の作業の効率化が期待できると思われました。総じて、この機械で除伐、地拵えを行うと、枝条や伐根が処理され、その後の作業においても機械が使用しやすい施業地が造成され、全体的な労働負荷の軽減に繋がると感じました。

今回の実演会は、昨年続き、カラマツ林業調査室の西岡泰久氏の企画により(株)筑水キャニコムが実施したもので、後日、今回の工程調査の結果が示されることが期待されます。また、6月2、3日には、南佐久南部森林組合の協力により川上村でも実演されました。4日には、(株)カネホ木材の協力で佐久穂町で実施予定でしたが、残念ながら雨天により中止となりました。

最後に、現場で見学していた現場技能者の意見は、人力作業による労働負荷が軽減されることを高く評価していたこと、また、この機械を購入した林業経営者の方々は何よりも労働負荷の軽減と労働安全を考慮して導入したことを申し添えて、実演会の報告といたします。なお、機械に関する詳しいお問い合わせは、キャニコム関東センター(電話0270-63-8011)へお願いします。

【佐久森林林業振興会】



### 林務部動画

絶賛配信中！

最近ではネット配信を利用して好きな動画を好きな時間に見られるようになりました。ちょっとした合間に本日の御嶽海を取組をチェックして：：なんて楽しんでる人も多いのでは。

林務部では、長野県森林づくり県民税の内容や林業の魅力など県民の皆さんにお伝えしたい情報を動画にしてYouTube（ユーチューブ）で公開しています。

下段に動画の紹介とアカウントをご案内いたしますので是非ご覧ください（QRコードをスマートフォン等のQRコード読み取りアプリで読み込むとYouTubeアカウントへ移動します）。

【信州の木活用課】



林業の魅力を伝える動画や、森林税、薪・ペレットストーブ、森林セラピーの紹介動画等を集めたアカウントです。他にも期限付きで公開される動画もあります。



#### ○信州の森ではたらく

#林業パパ編、#林業女子編、#林業男子編  
タレントの宮澤佐江さん（元AKB48）が、各地で頑張る若手就業者を訪ね、林業の魅力についてお互いに語りあい、生き生きとしたリアルな情報をお伝えしています。林業に興味ある方に、ぜひ見て欲しい動画です。



#### 長野県森林づくり県民税（通称：森林税）PR動画 3本

今ドキの女子高生の何気ない会話の中で森林税が話題に！  
他2本



#### ○炎のあるくらしはじめませんかー薪・ペレットで身体と心と「森林」を元気にー

視聴回数3万回超えの人気動画。ストーブのある暮らし、憧れます。



#### ○日本一の森林セラピー県”長野”

～信州の森林で癒しの時間を～  
森林で癒されたい方は、取り合えずここに集合です。

○【超危険?!】クマに出会ってしまった場合の正しい対処法  
出会ってからではもう遅い。不意にクマと出会ってしまったときにやってはいけない事など丁寧に解説。



#### ○WRN - Night Veil [Official Music Video]

長野駅を中心に年々増えるカラス対策を呼び掛けるミュージックビデオ！  
県職員がラップで啓発！！



なっとく!

## 森林経営管理制度

その11

新たな森林管理システムである「森林経営管理制度」などの疑問に森林経営管理支援センターがお答えします

**Q** 森林経営管理制度の県内の進捗状況について教えてください。

**A** 令和元年にスタートした森林経営管理制度については、県内全ての市町村で対象となる森林の絞り込み作業や今後どのような順番で森林所有者に対する意向調査を実施するか等の基本的事項を定めた森林経営管理制度実施方針の策定を進めています。

この制度に基づく森林所有者への意向調査は、令和2年度末で31の市町村で約6千ヘクタールを実施しています。市町村が森林の管理を行うことができる権利である「経営管理権集積計画」については、令和3年6月1日時点で約137ヘクタールを策定しています。

令和3年度は、引き続き多くの市町村で意向調査や集積計画の策定が実施され森林経営管理制度に基づく森林整備が本格化する見込みです。

経営管理権集積計画の公告/縦覧状況 令和3年6月1日時点

市町村名	団地名	面積 (ha)	存続期間
木曾町	樽沢団地	67.8980	2021.4.1~2041.3.31
木祖村	初沢団地	11.0035	2021.4.1~2036.3.31
大桑村	阿寺団地	10.2023	2021.5.1~2041.3.31
上松町	田口団地	47.6551	2021.6.1~2041.3.31
合計		136.7589	



経営管理権集積計画対象森林  
(上松町田口団地)



地元説明会の実施状況

森林経営管理制度に関するお問い合わせは  
長野県林務部森林政策課森林経営管理支援センター  
電話 026-9290-1207(直線)  
E-mail: shinrin-kanri@pref.nagano.lg.jp

## 令和3年度 木育事業

触れて、創って、知る ウッドコレクション

第44回 **長野県児童・生徒木工工作コンクール**

締切/令和3年 9月17日(金) 審査/令和3年 10月5日(火)

- 応募資格/長野県下の小学校、中学校、盲・ろう・養護学校の児童生徒の皆さん
- 作品基準/

- ①テーマ/自由(ただし、木材を主材料として利用・加工した総作品であること)
- ②大きさ/1辺が60cm以下(タテ・ヨコ・高さ全て60cm以下)  
※台を含め60cm以下、展開したり、広げて展示する作品も60cm以下

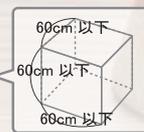
- ③その他/搬入搬出において、壊れにくいもの(破損した場合の責任は負いません)出来るだけ県産材を活用してください。

※作品の出品については各学校で受け付けております。その他不明点は下記までご連絡いただくか、ホームページまで!

■主催:長野県木材青壮年団体連合会

■共催(予定):長野県/中部森林管理局/(公財)長野県緑の基金/長野県産材振興対策協議会/長野県木材協同組合連合会

■後援(予定):長野県教育委員会/(一財)長野県建築住宅センター/長野県森林組合連合会/NHK長野放送局/SBC信越放送/NBS長野放送/TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/長野エフエム放送/新建新聞社/長野県民新聞社



みんなで  
応募しよう!

■お問合せ先

長野県木材青壮年団体連合会 事務局(長野県木連内)

〒380-8567 長野市岡田町 30-16 TEL:026-226-1471 FAX:026-228-0580

ホームページはこちら →

もくせいれん

検索



改めて知りたい!

# 森林組合

朝の連続ドラマの舞台になるなど、新たに注目を集める森林組合。

改めて森林組合がどんな取組みをしているのか紹介していく企画です。

今回は「森林組合の事業」について解説していきます!

## 森林組合の事業

森林組合は森林所有者の協同組織として森林組合法により設立されています。

森林所有者一人では成し遂げることが困難な、森林の経営管理や木材の有利販売などを構成する組合員が出資し合い、協同の力で解決していこうという組織です。

従って、森林組合で行われている各種事業は、組合員への直接の奉仕を目的に行われています。

また、森林は公益的機能を持つことから、組合員外が森林組合の事業を利用することも、事業分量の制限はありますが認められています。

### 必須事業と任意事業

森林組合法では、森林経営の指導や森林の保護といった、森林を守り管理する事業を「必須事業」として定め、販売や加工、利用といった収益性の高い経済事業を「任意事業」として明記しています。この「必須事業制」は他の協同組合には見られない制度となっております。その理由としては、農協のように事業者の協同組合ではなく、所有者の協同組合であること、そして、森林の公益的機能の維持が社会的責務を有していることが挙げられます。

## ～森林組合 主な4つの事業部門～

### 指導部門

必須事業として森林経営の指導を行うほか、施業地の集約化や広報、林業教育を行っています。



### 販売部門

高性能林業機械による  
林産事業

山から材木を伐り出す林産事業や組合員が生産した林産物の販売を行っています。



### 森林整備部門

森林整備事業

購買事業

利用事業 (ドローン測量)

利用事業 (特殊伐採)

森林整備部門は多岐にわたります。

必須事業として森林経営の受託（造林事業等）や森林保護事業が行われるほか、購買事業として林業資材等の販売、利用事業として森林経営計画の作成や森林調査・測量、支障木の特殊伐採等が行われています。

### 加工部門

木材を建材や土木用材へ製材したり、木質ペレット燃料や薪の製造、山菜やキノコの食品加工が行われています。





## 森林組合初任者研修会・会計研修会を開催

2021年5月26日～28日の3日間、長野市の長野県林業センターで、令和3年度森林組合初任者研修会及び会計研修会を開催しました。

昨年度まで、本研修会は森林組合初任者実務研修会として開催していましたが、開催時期の前倒しを希望する声や会計についての学びなおしの

要望が多かったため、初日を初任者研修会、2日目と3日目を会計研修会として、ニーズに応じた受講ができるように変更しました。検温、消毒やマスクの着用等感染対策を徹底する中で県下の森林組合から20名の参加がありました。

初日は、森林組合職員として知っておきたい森林林業の知識とビジネスマナーを学びました。長野県林務部信州の木活用課の橋渡博之課長補佐に「長野県の森林・林業を取り巻く状況」について、講演いただき、当会から「森林林業の基礎知識」と「森林組合の事業」について説明しました。



▲名刺交換のマナーを学ぶ



▲信州の木活用課橋渡課長補佐から「長野県の森林・林業」について講演



▲2日間みっちり取組んだ会計研修

森林組合系統の職員には、森林所有者の協同組合である森林組合の林業との関わり方や社会での期待を理解し、森林・林業の持続的な振興へ繋がる活躍が求められています。初日の午後は、「ビジネスマナーの基礎知識」として、JA長野中央より新井千恵子氏を講師に迎え、名刺交換や電話応対などロールプレイングを交えて学びました。職員の第一印象は組合の第一印象にも繋がります。しっかりとビジネスマナーを身に着けて、信頼される職員を目指しましょう。

### 第28回森林組合購買チラシ配付中!

**JForest** 今年も魅力ある商品が大集合!

お求めはお近くの森林組合へ



Web版はこちら

2日目からは、会計及び簿記の基礎から森林組合の会計、森林組合の事業における仕訳について、演習形式で理解を深めていただきました。新卒者など簿記に初めて触れる方も多く、また経験者にとっても、森林組合特有の処理の仕方があるため、戸惑いながらも真剣に取り組む参加者の姿がありました。この研修で学んだことをそれぞれの森林組合の実務の中で活かしてスキルアップに繋げて下さい。今後も指導利用部では森林組合監査や研修会等を通してサポートしてまいります。



▲空港の新たな顔となったヒノキ製看板

松本市にある信州まつもと空港の看板が長野県産材を使ってリニューアルされました。これは、農林中央金庫のCSR事業である「国産材利用拡大活動」を活用したもので、これまでも長野県立大学に木製パーティションを寄贈するなど、継続的に活動が行われています。

### 信州まつもと空港の看板が県産ヒノキ材に (農中CSR国産材利用拡大活動)

今回、リニューアルされた看板は、長野県内で伐採されたヒノキ材を使い、伊那市高遠町にある株式会社MINOウッドにて製作されました。大きさは高さ1150mm×幅2600mmで、空港入口ロータリーの門に据え付けられ、ぬくもりあるヒノキの柔らかい色合いが、空港を訪れる方々を出迎えます。2021年6月24日に同空港で行われた寄贈式には、長野県本空港管理事務所から須山昌明所長、松本空港ターミナルビル(株)から青木一男専務取締役、農林中央金庫から和田敏希長野県域担当部長、長野県森林組合連合会から高田幸生専務理事が出席し、関係者のみで行われました。年間7万5000人余りが利用する、長野県の空の玄関口の新たな顔として、また長野県の森林や県産材の良さを県内外の人に広く知ってもらうシンボルとして、国産材利用拡大の促進に活躍してくれることが期待されます。空港の近くを訪れた際は、ぜひご覧になってみて下さい。



▲各班のグループ討議の結果を発表し合い受講者全体で共有

2021年6月24日～6月25日の2日間、安曇野市三郷のもくりゅう館で森林組合職員を対象にした「職長・安全衛生責任者教育」が開催されました。この研修会は、現場における作業員の安全及び指導・監督能力の向上を目的として開催され、新型コロナウイルスの影響で2年振りの開催となった今回は、森林組合から29名が受講しました。

### 令和3年度 職長・安全衛生責任者教育



▲作業計画策定に取り組む受講者

研修会は、RSTトレーナーの横山繁樹氏を講師に迎え、職長の役割、指導及び教育の方法から、労働災害の原因やその環境を分析するリスクアセスメントの他、作業手順の定め方、災害発生時における措置、災害事例研究など、2日間で計14時間にわたって行われました。講義とグループワークで進められ、それぞれの日々の業務での経験を基に、普段なかなか交流することがない、他の森林組合職員と活発な議論が交わされました。受講者には、労働安全衛生法で定められた「職長・安全衛生責任者教育カリキュラム」に基づく修了証が交付されます。



# 暑中お見舞い申し上げます



一般社団法人

## 長野県林業センター

理事長 藤原 忠彦  
副理事長 宮崎 正毅  
副理事長 水本 豪  
常務理事 宮宣 敏

## 長野県森林組合連合会

代表理事 会長 藤原 忠彦  
副会長 理事 林 幸弘  
代表理事 専務 高田 幸生  
常務理事 櫻井 肇

## 長野県木材協同組合連合会

理事長 宮崎 正毅  
副理事長 佐原 良彦  
副理事長 都築 透彦  
副理事長 新井 幸弘  
副理事長 宮野 照幸  
専務理事 柴野 宏幸  
事務局 長 松本 寿昌  
弘志

## 長野県水源林

### 造林協議会

会長 白鳥 孝

## 長野県治山林道協会

会長 羽田 健一郎  
役員 一同

一般財団法人

## 長野県林業労働財団

理事長 山口 勝也  
役員 一同

## 長野県林業労働力確保支援センター

## 長野県林業団体協議会

会長 高田 幸生  
副会長 藤原 忠彦  
副会長 宮崎 正毅  
副会長 水本 豪

## 林業・木材製造業労働災害防止協会

長野県支部  
支部長 宮崎 正毅  
副支部長 高田 幸生  
幹事 阿部 勝彦  
事務局 長 柴田 彦志

## 信州木材認証製品センター

理事長 宮崎 正毅  
副理事長 高木 明  
副理事長 柴田 幸生  
専務理事 松本 寿昌  
事務局 長 弘志

## 長野県有林森林整備協会

会長 由井 正隆  
副会長 林井 三弘  
専務理事 酒井 省三  
長野市稲葉母袋沖六一二一  
TEL (025)2851907  
TEL (025)2851907  
FAX (025)2851907

## 長野県山林種苗協同組合

理事長 富澤 修一  
組合員 一同

## 長野県林業コンサルタント協会

理事長 羽田 健一郎

## 長野県林業

### 薬剤防除協会

会長 牧 司

## 農林中央金庫

部長 宇都宮 正一  
関東業務部

## 南佐久北部森林組合

代表理事 佐々木 勝

## 南佐久中部森林組合

代表理事 黒澤 和夫  
組合長 黒澤 和夫

## 南佐久南部森林組合

代表理事 由井 明彦  
組合長 由井 明彦

## 佐久森林組合

代表理事 山岸 喜昭  
組合長 山岸 喜昭  
役員 一同

## 信州上小森林組合

代表理事 倉沢 明人  
組合長 倉沢 明人  
役員 一同

## 木曾森林組合

代表理事 原 久仁男  
組合長 原 久仁男  
役員 一同



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



# 暑中お見舞い申し上げます



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

<p>会 長 林 和 弘</p> <p><b>長野県 特用林産振興会</b></p>	<p>会 長 神 戸 直 日</p> <p><b>長野県 林業経営者協会</b></p>	<p>一般社団法人</p> <p>会 長 林 和 弘</p> <p><b>長野県 林業普及協会</b></p>	<p>会 長 林 和 弘</p> <p><b>長野県 森林組合長会</b></p>	<p>会 長 藤 原 忠 彦</p> <p><b>長野県 造林協会</b></p>
<p>会 長 羽 田 健 一 郎</p> <p>役員一同</p> <p><b>上 小林業振興会</b></p>	<p>役員一同</p> <p><b>佐久 森林業振興会</b></p>	<p>会 長 鮎 澤 光 昭</p> <p><b>長野県 生産森林組合 等団体 有林連絡協議会</b></p>	<p>会 長 飯 森 幸 彦</p> <p><b>長野県 林業士会</b></p>	<p>会 長 田 中 忠</p> <p><b>長野県 林業研究グループ 連絡協議会</b></p>
<p>代表理事 組合長 藤 森 良 隆</p> <p>役員一同</p> <p><b>諏訪 森林組合</b></p>	<p>会 長 貴 舟 豊</p> <p>役員一同</p> <p><b>木曾 山林協会</b></p>	<p>役員一同</p> <p><b>下伊那 山林協会</b></p>	<p>役員一同</p> <p><b>上伊那 山林協会</b></p>	<p>役員一同</p> <p><b>諏訪地域 森林づくり 林業振興会</b></p>
<p>事務所 小諸市大字平原四ツ谷原九六七七 ☎(〇二六七)二二一〇 FAX(〇二六七)二四一〇六八三</p> <p>理事長 新井藤弘</p> <p>役員一同</p> <p><b>北佐久 木材協同組合</b></p>	<p>役員一同</p> <p><b>松本 地域森林 林業振興会</b></p>	<p>信州根羽すぎ・根羽ひのき</p> <p>代表理事 組合長 大久保憲一</p> <p>役員一同</p> <p><b>根羽村 森林組合</b></p> <p>☎下伊那郡根羽村四〇七一〇 (〇二六五)四九一二二〇</p>	<p></p> <p>代表理事 組合長 常務理事 林 吉澤悦史</p> <p>役員一同</p> <p><b>飯伊 森林組合</b></p>	<p></p> <p>もりもり上伊那</p> <p>代表理事 組合長 白鳥孝</p> <p>役員一同</p> <p><b>上伊那 森林組合</b></p>



# 暑中お見舞い申し上げます



## 上小木材協同組合

理事長 小林 基英  
組合員一同  
上田市芳田一八一八一  
☎(〇二六八)三五一一四〇〇

## 南安曇木材協同組合

理事長 佐原 良彦  
安曇野市穂高七九四〇一二七  
☎(〇二六三)七二一二二〇〇

## 飯伊木材協同組合

理事長 松下 勝彦  
事務局 飯田市常盤町三〇  
☎(〇二六五)三三一一三二六一

## 北信木材生産センター協同組合

代表理事 竹下 元治  
長野市大字穂保字中ノ配三四二

## 木曾南部森林組合

代表理事 坂家 重吉  
組合長 坂家 重吉  
役員一同

## 瑞穂木材株式会社

木材製材販売・住宅資材販売  
代表取締役 宮崎 正毅  
下高井郡木島平村大字穂高三三三八一  
☎(〇二六九)八二一三一八  
FAX(〇二六九)八二一四一五六

## 宮澤木材産業株式会社

代表取締役 宮澤 遥  
長野市中曾根二一八八一五  
☎(〇二六)三三九一〇五八八代  
FAX(〇二六)三三九一三三八〇  
環境事業部  
☎(〇二六)三三九一三二二六〇  
FAX(〇二六)三三九一三二二五二

## 齋藤木材工業株式会社

ハイグレード集成材 信州唐松丸  
代表取締役社長 齋藤 健  
〒386-0603 長野県小県郡長和町古町四二九四  
TEL(〇二六八)六八一三五三二  
FAX(〇二六八)六八一〇二二五

## 南木曾町森林組合

代表理事 藤原 和年  
組合長 藤原 和年  
役員一同

## 株式会社 吉本

代表取締役 由井 正隆  
南佐久郡佐久穂町大字平林二二一  
☎(〇二六七)八六一四三〇五  
FAX(〇二六七)八六一五五四四

## 日本林業土木(株)長野出張所

出張所 長野 竹内 正比古  
長野市岡田町三〇一八  
長野県林業センタービル内  
☎(〇二六)二二七六一八五

## みどり産業株式会社

代表取締役社長 洞 和雄  
本社 長野市大字稲葉二四二三 長野林友ビル  
☎(〇二六)二二四一八七〇八  
FAX(〇二六)二二三一七九八九

## 日本森林技術協会

長野事務所 所長 油井 章次郎  
長野市中御所岡田町三〇一八  
☎(〇二六)二二七一二六六〇

## 株式会社 中部森林技術コンサルタンツ

建設コンサルタンツ  
(森林整備 治山林道環境事業等  
森林の総合調査設計)  
支店長 長谷川 洋  
長野市稲葉中千田沖二〇四〇一  
☎(〇二六)二二四一八七一一〇

## 株式会社 飯田綜合木材センター

代表取締役 松下 勝彦  
長野県飯田市鼎切石四三六七番地  
TEL(〇二六五)三三一三七七  
FAX(〇二六五)三三一五五六七

## 木曾官材市売協同組合

理事長 勝野 智明  
長野県木曾郡上松町正島町一丁四五  
TEL(〇二六四)五二一四八〇  
FAX(〇二六四)五二一三三二四

## 竹村工業株式会社

国内産ヒノキ間伐材使用  
高圧木毛セメント板製造・販売  
下伊那郡松川町上片桐四六〇四  
TEL(〇二六五)三六六一六一一  
FAX(〇二六五)三六六一六五五

## 松本広域森林組合

代表理事 吉田 満男  
組合長 吉田 満男  
役員一同

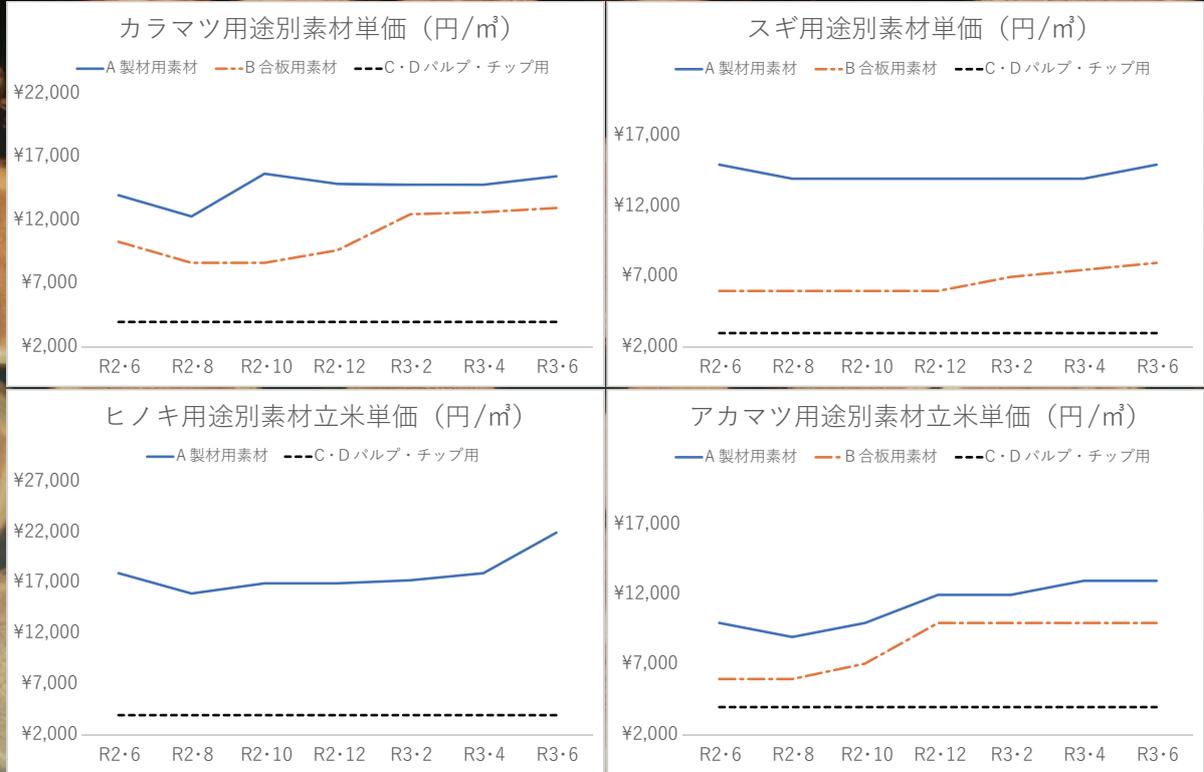
## 信州の木認証合板で地産地消の緑の循環



(本社) 06-6228-1401  
(七尾工場) 0767-52-4376  
(舞鶴工場) 0773-68-0306  
(北陸営業所) 0767-52-4376



# JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

米国に端を発する世界的な木材不足である「ウッドショック」が、引き続き県内の市場にも影響を及ぼしている状況です。高まる木材需要に対応すべく県内でも施業が始まり、各木材センターでも出材量が増加傾向にあります。

市況グラフから、新型コロナの影響が出荷制限など市場に本格的な影響を及ぼしていた昨年6月とそれぞれ比較しますと、カラマツ製材用で約 1,500 円 / ㎡、合板用で約 2,700 円 / ㎡、スギ合板用で約 2,000 円 / ㎡、ヒノキ製材用で約 4,000 円 / ㎡、アカマツ製材用で約 3,000 円 / ㎡高い結果となっています。

特にヒノキ、スギの製材用では近年稀にみる高値も見られ、引き合いが活発になっております。広葉樹材もクリ、ナラ、サクラの良材を中心に高値傾向が続いており、秋に向けて期待感があります。

「ウッドショック」は林材業界のみならず、一般ニュースにも取り上げられるなど、社会における木材利用に対する注目度はこれまでに無いものとなっており、国産材利用を定着化する好機であることは間違いありません。長野県森連木材センターとしても有利販売と安定供給に向けた取組みを強化していきますので、積極的な納材のご協力をお願いいたします。

梅雨に入り、虫害など材が劣化しやすい時期となりました。出材にあたっては伐採後速やかな出荷をよろしくお願いいたします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いいたします。



県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪

